

ICTを活用したキャリア教育

新潟・長岡市立関原中学校

知・徳・体を総合的に育み、ICTを活用したキャリア教育を推進している新潟県長岡市立関原中学校（田中哲也校長、生徒262人）。「キャリア・パスポート」「自己理解シート」などを開発し、12の研究プロジェクト（「ICTを活用した学びのポートフ

ォリオ」「学習状況の観点別評価」など）に取り組んでいる。目指すところは、自ら学び続ける「能動的学習者」（アクティブ・ラーナー）の育成。同校の指導・助言を行う吉崎静夫・日本女子大学名誉教授のコメントと合わせて紹介する。

「能動的学習者」を育成



吉崎 静夫

日本女子大学名誉教授

関原中学校の特色の一つは、ICTを活用したキャリア教育が実践されている点にある。1人1台端末を使い、生徒は「学びのポートフォリオ」キ

学習や生活を自己調整し、予想できない出来事は、性が高いデータによって、今後の起り得ることが、その有用性が一層明らかになることを期待し、育む上で、キャリア教育たい。

事実に基づく振り返り、可能に

客観的で信頼

「ICT×キャリア教育」の担う部分は大きい。「自己理解シート」「生活理解シート」の作成に取り手だてを開発したのは、リア教育を据え、ICT組んでいる。それにより、同校の大きな強み。誰も活用という現代的な視点から、

「全ては子どもたちの未来のために」。それをモットーに掲げる同校では、学習指導要領の前文を踏まえ、キャリア教育で育みたい基礎的・汎用的能力（自己理解能力）「人間関係形成能力」「社会形成能力」など六つを設けた。こうして、学校で作成した力を全ての教育活動で活用している。1人1台端末を使い、生徒たちは「学びのポートフォリオ」に取り組んでいる。

まず「知」の側面から重点に置くのは「学習意欲」の向上だ。各教科の単元のまとめで、学校で作成した「学びのポートフォリオ」を活用している。1人1台端末を使い、生徒たちは「学びのポートフォリオ」に取り組んでいる。

学びのポートフォリオ

単元の学びと生き方 職業との関係考える

「立志 貢献」という教育財団の特別研究指定育目標の下、これからの社会として、ICTの効果的な活用にも取り組んでいる。活用にも取り組んでいる。活用にも取り組んでいる。活用にも取り組んでいる。

客観的な視点を持ち 自分自身を見つめる



独自のキャリア・パスポート

次に、「徳」の側面では「自己効力感」の育成に力を入れている。手だての「自己調整力」の習得も、主体的に生活習慣・学習習慣の改善を図ることに注力。学習指導要領でも「主体的に学習に取り組む態度」を見取るキーワードの一つになっている。

キャリア・パスポートの「12の力」の振り返りシートを見て、自分が身に付けた力のために取り組んだことなどをまとめた。また、キャリア教育で育みたい六つの基礎的・汎用的能力を、さらに分かりやすくするために12の力（創造する力」「挑戦する力」など）に分類。道徳的価値項目と関連付けたルーブリック表を作成し、生徒にも提示するようにしている。自分の行動を客観的に評価し、より具体的な行動目標などが立てられるようになったという。

自己理解シート・生活理解シート

学習・生活習慣の課題 把握し主体的に改善

「自己効力感」の育成に力を入れている。手だての「自己調整力」の習得も、主体的に生活習慣・学習習慣の改善を図ることに注力。学習指導要領でも「主体的に学習に取り組む態度」を見取るキーワードの一つになっている。同校では、学習や体力なめた「自己理解シート」を保護者からも好評で、今後進路選択時に使用。毎日の生活情報（起床・就寝時刻、家庭学習時間、メディア利用時間）を蓄積して「生活理解シート」は、